

いたリール第一大学のS.Bielawski先生とC.Szwaj先生から、「うちのプロジェクトでポストクを探しているからフランスに来てみないか」というお誘いを頂いた。しかもそのプロジェクトにはCouprie先生も参加しているとのこと、断る理由が見つからなかった。それに海外の研究者らがいかにして質の高い論文を量産しているのか気になっていたし、何かしら所縁のあったフランスには行ったことがなかったので行ってみたいという気持ちは強かった。しかし言葉の問題（フランス語は勉強したことがない）や、文化や生活環境の違う異国の地で果たして長期生活していけるのかという不安に駆り立てられた。だが、このチャンスを逃したら海外で生活するという貴重な経験は一生できないぞと自分にプレッシャーをかけて、ようやく腹をくくることができ、フランスに行くことを決意した。

渡仏に向けて様々な手続きに追われながら5月からフランスでの生活がスタートした。しかし、その生活はカ

ルチャーショックの連続であった。まず研究者以外英語を話せる人がほとんどいないことである。言葉が通じないのに、これからどうやって生活していけばいいのだろうか。また周りには日本人はおらず、フランスでの生活の仕方もネットで調べておいた内容だけでは全く事足らずであった。そして、ショッピングをしようと思いきや日曜日は飲食店以外は基本お休み。日本のコンビニのような深夜でも開いているお店もない。大学も夜と週末はセキュリティの為に進入するのも一苦勞。こういう状況に初めは全く馴染めず、生活のリズムが作れず厳しい日々であった。しかしそんな自分を救ってくれたのが、自分が好きな中世の西洋建築物の街並みを物見遊山に散歩することであった。また、日本食が恋しくなるかと思いきや、意外とこちらの料理は日本人の舌に合っていて、さらに好きなワインも安く手に入り、つまみにソーシーソンと呼ばれるサラミのようなものとおいしいフランスパンを食

べたりしつつ、ようやくこちらの生活を楽しめるようになってきた。少しずつフランス語も勉強し始め、カフェやちょっとしたレストランなら一人でも行けるようになった。色々トラブルに見舞われながらも、フランスの先生らに助けられつつ、海外生活を堪能している。まだまだフランス語が話せない、コミュニケーションに苦勞しているが、大学の人らと外でお日様にあたりながらのコーヒータイムを楽しみつつ、早くフランス語で会話できるように、研究と並行して頑張っていきたいと思っている。

末筆ながら、3年間お世話になったUVSORの先生方やスタッフの皆さん、そして友人ら、これまで陰ながら支えてくれた家族・祖父母らにこの場を借りて感謝を捧げたい。

総研大ニュース

カセサート大学理学部とMOUを締結

平成23年4月より5年間の期間、総合研究大学院大学物理科学研究科がカセサート大学理学部とMOUを締結することになりました。カセサート大学はバンコクにある大学で、もともと農学系の大学でしたが、現在は総合大学になっており、4つのキャンパスがあります。すでにMOUを締結しているタイ国のチュラロンコーン大学と同様に、研究・教育のアクティビティは高く、学生数はタイ国では最大で、5万3千人を超える大きな大学です。これまでもカセサート大学からは、総研大アジア冬の学校などで多くの大学院生

が分子研に訪れています。また、JSPS-JENESYSプログラムにおいても、カセサート大学から毎年数名の大学院生や若手研究者が分子研に短期滞在し、研究活動を行っています。さらに、これらの分子研訪問を契機としていくつかの共同研究も行われています。この度、MOUが締結されたことによって、これまでに以上に教育や研究の交流が深められることが期待されます。

（江原 正博 記）



カセサート大学、バンコクのBangkhenキャンパス